令和７年度　野田市文化会館及び野田市生涯学習センター
指定管理者管理運営状況調書

担当課　生涯学習課

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価	担当課評価	特記事項
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	サービス向上のための取組状況	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る経費の収支見込について	B	B	
	②経費縮減のための取組	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際して、地元業者へ配慮すること	地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	人員配置について	B	B	

総合所見

施設全般の状況としては、定例会議や月次報告の後に、生涯学習課の管理職及び担当者が現地において確認をしているが、施設運営及び維持管理ともに、順調に行われているものと担当課としては評価する。

事業については、完売となった春風亭昇太・昇也「親子会」、春風亭一之輔独演会等鑑賞型事業のほか、市制施行 75 周年を契機とした市民の芸術文化活動の支援として、３つの記念事業（ホールでピアノをひとりじめ、鈴木道子氏講演会と「日本のいちばん長い日」映画上映、ミュージックフェスタ 2026）を市と共催で開催した。また、事業企画への市民参加の機会づくりのための生涯学習スタート講座や、子どもの利用・参加を促進する地元出身のクリエーター・リベットボタンのワークショップの実施など、幅広い年齢層を対象に地域活性化に十分貢献している。

施設の利用状況については、コロナ禍後の高齢者の利用減少や小人数での活動増加などの傾向が続いており、多くの市民に利用していただくための対応策が必要である。

指定管理に係る経費の収支見込は、収入見込合計額 223,136 千円、支出見込合計額 225,376 千円であり、約 2,240 千円の赤字となる見込みとなっている。原因と

しては、施設利用の減少によって利用料収入が伸び悩み、経費削減を上回っている状況であり、より利用しやすい環境づくりやＰＲ強化等、利用者を増やす新たな取り組みが必要である。 　経費縮減のための取り組みとしては、集客のための印刷製本費、ホームページ運営費、広告料等の増加分を、消耗品費、報償費、修繕費、通信運搬費等の縮小で取り戻して予算を下回る支出とされており、その努力が感じとれる。今後も利用者へのサービスを低下させずに経費縮減に取り組んでもらいたい。 　地元住民の雇用については、指定管理者職員全体に対する野田市民の割合が 34 人中 21 人（61.8%）となっている。また、業務委託や消耗品購入に関して、地元業者を積極的に採用しており、十分な配慮がなされている。 　人員配置については、事業及び施設の運営に必要な資格保持者・実務経験者が配置されており、要求水準を満たしている。 　施設の管理運営全般については、施設の老朽化が顕著な中、次年度修繕予定の舞台設備について点検回数を増やすなど、事故や来館者へのサービス低下を防ぐ措置が的確に行われている。 全体的に事業計画書に沿って管理運営がなされており、地域の生涯学習と文化振興の拠点として、地元を活性化する各種事業の企画と施設の運営を行い、施設利用者数の増加を目指し、さらなるサービス向上に努めてもらいたい。